

令和4年10月4日
福岡市福祉局福岡100推進課
障がい企画課

市政記者各位

福岡 100 がアップデートし、次のステージへ — 何歳でもチャレンジできる未来のまちへ —

福岡市では、人生100年時代を見据え、誰もが心身ともに健康で自分らしく暮らせる持続可能な社会をつくるプロジェクト「福岡100」に取り組んでいます。「福岡100」では、2025年までに産学官民「オール福岡」で100のアクションを実践することを目指し取組みを進めていましたが、その100番目のアクションとして、「福岡100」のコンセプトをアップデートし、プロジェクトを次のステージへと展開させることとしました。

また、「福岡100」の理念の具現化を産学官民で推進する仕組みとして、企業等からの事業提案窓口「福岡100ラボ」を創設。さらに、新たなコンセプトに基づいたリーディング事業として、多様な働き方や活躍の場をつくる「Beyond バリアプロジェクト」を開始します。

福岡市は、何歳でもチャレンジできる未来のまちをめざし、取組みをさらに加速させていきます。

記者発表の概要

①福岡100のアップデート

- 100アクションの達成はゴールではなく、これからも**人生100年時代にむけたまちづくりにチャレンジ**し続けます
- これからは、健康寿命延伸に加え、**市民一人ひとりの Well-being の向上**を目指します
- 市民一人ひとりの Well-being の向上のために、**新たに6つの分野を定め**、重点的に推進します
- 産学官民オール福岡でビジョンの具現化に取り組み、誰もが「福岡100」による**暮らしの変化を実感できるプロジェクト**に発展させます

②福岡100ラボの創設

福岡市と福岡地域戦略推進協議会（FDC）が新たに立ち上げる「福岡100ラボ」は、「福岡100」を産学官民オール福岡で実現していくための企業等からの事業提案窓口であり、社会実装に向けた共創の場です。社会実験の共同実施から、ソリューションの市内での展開まで、一体的に支援します。

③「Beyond バリア プロジェクト」

だれもが役割をもって活躍できるまちを目指し、高齢者や障がい者などの様々な属性の様々な環境にある方の就労や社会参加を促進するため、時間や距離、参加手段等の制約を超えた多様な働き方、多様な活躍の場をつくるプロジェクト。

令和4年度は、第1弾として重度障がいや難病などにより外出が困難な方の社会参加のため、分身ロボット OriHime を活用した事業を開始。

「福岡 100」のアップデートについて

1. アップデートの背景

「福岡 100」プロジェクトを開始した 2017 年から 5 年が経過しました。AI・IoT などの新たな技術の浸透や新型コロナウイルス感染症の流行などの新たな社会環境の変化や、Well-being の重視・インクルーシブなまちづくりなどの新たな価値観も登場しました。節目としていた 100 番目アクションとして、社会環境の変化や新たな価値観を踏まえ、「福岡 100」を新たなステージへと発展させます。

2. 「福岡 100」の新たな取組み分野

「福岡 100」アップデートに伴い、新たなビジョンを作成し、6 つの分野を重点的に推進します。旧来の分野に加えて、Well-being の向上にむけた分野を追加しました。

① 自然に楽しみながら健康になれるまち 心と身体の健康は、高齢者だけでなく誰にとっても生きていくうえで大切な要素です。健康に関心があるかどうかに関わらず、すべての人たちが自然と健康になれる仕組みや仕掛けを作っています。	② デジタル時代の医療サービスが実現されるまち ICTやAIなどデジタル技術を活用することで、誰でもどこにいても必要なサービスを受けられる安心安全の健康医療体制を整備していきます。	③ 住み慣れた地域でいつまでも暮らせるまち 年齢を重ねることで、病気や認知症、介護が必要になるなど、多くの変化が訪れます。いくつになっても不安なく暮らせるよう、日常生活のなかで生活を支えるケアを受けられる基盤を作っています。
④ だれもが役割をもって活躍できるまち 年齢や病気や障がいの有無などに関わらず、どんな人でも「生きがい」を感じて社会参画・活躍ができる仕組みづくりや場の提供を進めています。	⑤ 多世代・多様な人がつながりあえるまち 人とのつながりは、人生を豊かにする最も重要な要素の一つです。幅広い世代や多様な人とつながることで、生きることを歓べる社会と支え合いの仕組みを作っています。	⑥ 自分らしい生き方を選べるまち エイジングリテラシーの向上、ソフトとハード両面でのバリアフリー化など、人生の最期まで自分で生き方や幸福のあり方を選べる環境づくりに取り組んでいます。

3. 今後の推進方法

①福岡 100 プロジェクト推進会議

有識者等を入れた会議体を設置・開催し、新たな取組み分野における課題解決を加速させます。

②福岡 100 ラボ(詳細は 3 P)

FDC と共同で企業等からの事業提案窓口「福岡 100 ラボ」を設置し、多くの主体のプロジェクトへの参画を促進します。

③プロモーション強化

多くの市民などの人生 100 年時代に向けた行動変容を促すため、積極的なプロモーションを実施します。

a.「福岡 100」コンセプト BOOK 案 (添付資料)

新たな「福岡 100」の概要版パンフレット。「福岡 100 が実現したい未来」や、実現していくための方法、これから取り組んでいく 6 つの分野について、説明しています。

b.福岡 100 公式 HP(リニューアル)

様々なアクションやプロジェクトへの参画方法などを紹介しています。アップデートの詳細等も公式 HP で公開予定。

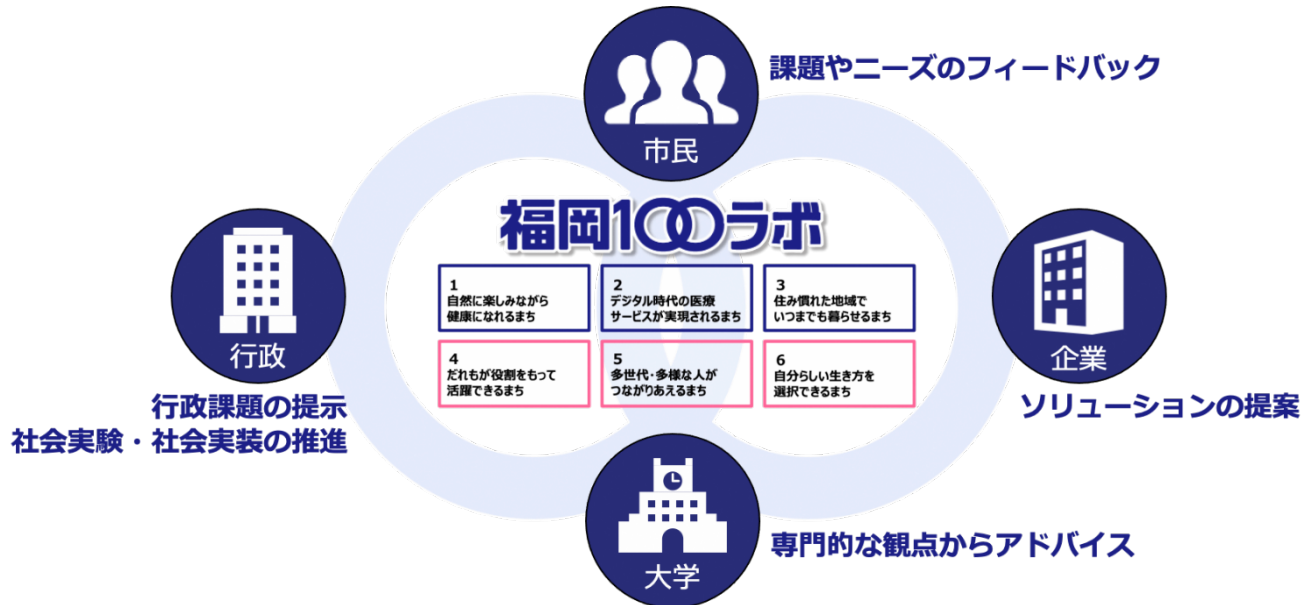
福岡 100 公式 HP(<https://100.city.fukuoka.lg.jp/>)

福岡100
何歳でも
チャレンジできる
未来のまちへ

福岡 100 ラボについて

1. 「福岡 100 ラボ」の概要

福岡市と福岡地域戦略推進協議会（FDC）が新たに立ち上げる「福岡 100 ラボ」は、「福岡 100」を産学官民オール福岡で実現していくための企業等からの事業提案窓口であり、社会実装に向けた共創の場です。社会実験の共同実施から、ソリューションの市内での展開まで、一体的に支援します。



2. 「福岡 100 ラボ」の流れ

- ① 「福岡 100」が目指す6つのまちを具現化する事業について、企業等からの提案を随時募集します。
 - **福岡 100 ラボ HP にて、本日より提案受付を開始！** <https://f-100lab.jp>
- ② ①のうち、特に官民が共同で取り組むべきテーマに対して、社会実験を行うソリューションを公募します。（第1回公募は令和4年度冬を予定）
- ③ 提案企業と福岡市が共同で社会実験に取り組み、市民の Well-Being 向上などビジョンの実現につながるか検証します。
- ④ 成果が確認されたソリューションを市内展開し、社会実装を目指します。

3. （参考）福岡地域戦略推進協議会（FDC）とは

福岡地域戦略推進協議会（会長：麻生泰）は、福岡の新しい将来像を描き、地域の国際競争力を強化するために、地域の成長戦略の策定から推進までを一貫して行う、産学官民一体の Think & Do タンクです。福岡都市圏を核として、九州、さらには隣接するアジア地域との連携を図り、事業性のあるプロジェクトを推進しています。

福岡 100 ラボでは、FDC の産学官民約 200 団体のネットワークとリエゾン（連携・橋渡し）機能を活かして、マッチング等の実装支援を行ってまいります。

福岡 100 ラボ公式 HP (<https://f-100lab.jp>)

「Beyond バリア プロジェクト」について

1. 概要

だれもが役割をもって活躍できるまちを目指し、高齢者や障がい者などの様々な属性の様々な環境にある方の就労や社会参加を促進するため、時間や距離、参加手段等の制約を超えた多様な働き方、多様な活躍の場をつくるプロジェクト。

令和4年度は、第1弾として重度障がいや難病などにより外出が困難な方の社会参加のため、分身ロボット OriHime を活用した事業を開始します。自宅に居ながらも、社会参加が可能になることで、誰もが自分らしく暮らすことができる社会の実現を目指します。

2. 分身ロボット OriHime とは



- ・株式会社オリイ研究所が開発した分身ロボット
- ・ロボットを遠隔操作し、操作者の分身として、そこにいるかのようなコミュニケーションが可能。
- ・ロボットにはカメラ、マイクが搭載。会話が可能。
- ・顔や腕が動き、操作者の感情を動きで表現できる。

3. 事業内容

重度障がいや難病がある6名のパイロットが、市内の2カ所に設置した分身ロボットを使って、それぞれ1カ月半程度、遠隔操作で受付等の業務に1時間交代で従事。

分身ロボットを使うことで、遠隔からでも短時間の交代制で従事できるため、体調に無理のない範囲で従事が可能。

<実施場所>



① 博多区役所

10月17日～11月30日

1階の魅力発信コーナーで博多織などの展示品を説明します。

※現地での様子取材いただけます

日時：10月17日 11:00開始（11:45終了予定）

場所：博多区役所1階 魅力発信コーナー（南側入り口すぐ）



② 高齢者施設（デイサービス）

12月中旬～1月末（予定）

市内の高齢者施設で、利用者の方とお話するなど、コミュニケーションをとります。

お問い合わせ先

◆「福岡100」プロジェクト・「福岡100ラボ」に関して

福祉局 総務企画部 福岡100推進課 奥田

TEL：092-711-4543（内線2056）

◆「福岡100ラボ」に関して

福岡地域戦略推進協議会 担当 片田江・平島

TEL 092-710-7739 / info@fukuoka-dc.jpn.com

◆分身ロボットを活用した事業に関して

福祉局 障がい者部 障がい企画課 西依（にしより）

TEL：092-711-4247（内線2115）

(参考) 福岡 100 とは

1. 福岡 100 の取組みの背景

高齢化率は一貫して上昇し、2040年には約3人に1人が高齢者となると予測されます。要介護認定者や認知症の人なども増加し、医療費や介護費などの社会保障費も大幅に増加していきます。一方で、生産年齢人口の割合は低下していくため、社会保障制度の需給バランスの維持が困難となる可能性があります。そこで、来たる人生100年時代を見据え、持続可能な社会モデルをつくるプロジェクト「福岡100」を、2017年にスタートさせました。

2. 「福岡100」の主な取組み例

(1) 幅広い主体の参画による取組み例

市民や企業などの幅広い主体の参画を促すことにより、認知症の人を社会全体で支えていくまちづくりや、在宅生活をおくる高齢者への持続可能な生活支援など、市民サービスの向上につなげています。

① 認知症フレンドリーシティ・プロジェクト

認知症の人が認知症とともに住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるまちを目指して、平成30年度に「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」を開始し、様々な施策を展開している。

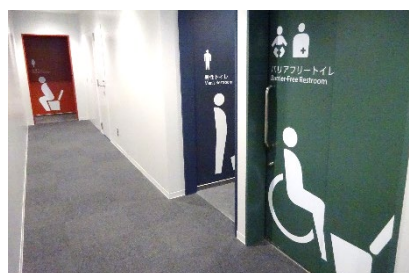
主要施策の一つである認知症コミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード®」について、家族介護者及び専門職向け講座に加え、地域や児童生徒などに展開し、令和3年度末時点で累計135講座、6,814人が受講。

また、認知症の人も介護者もストレスなく安心して暮らせる環境を整備するため、「認知症の人にもやさしいデザインの手引き」を令和2年度に発表。令和3年度末時点で高齢者施設や公共的施設29施設に導入済。

さらに、令和3年度には認知症の人の「支援」から「活躍」へのステップアップを図るため、認知症について自主的に「知る」「考える」「つながる」「行動する」ためのコンソーシアム「福岡オレンジパートナーズ」を設立。認知症の人や企業、福祉事業者等で構成し、令和3年度末時点で81社・2団体が参画。認知症フレンドリーな商品の開発や、認知症の人が活躍できる場の創出を促進している。



中学校でのユマニチュード講座の様子



博多区役所新庁舎にデザイン導入



認知症の人の声を取り入れたバッグをパートナーズ参画企業が制作・販売

② 買い物等の生活支援推進事業

地域と企業等のマッチングを図り、地域の支え合いによる買い物等の生活支援を推進。令和2年度までのモデル事業において、地域特性に応じた支援の仕組みを構築。令和3年度から買い物支援推進員を増員し、買い物困難を地域課題と感じている9つの地域で取組みを実施中。買い物支援の情報発信や協力企業等の登録（令和3年度末時点32社）も推進。



東花畑における移動販売

(2)新たな技術やエビデンスなどを活用した取組み例

ビッグデータやエビデンスを活用した効果的な施策の推進を図ることにより、市民の健康寿命延伸につながる取組みを実施しています。

①地域包括ケア情報プラットフォーム

保健・医療・介護等に関するデータを一元的に集約・管理・活用するための情報通信基盤（平成 28 年度運用開始）。約 230 種 42 億件のデータを蓄積しており、令和 2 年度から大学等と連携しデータ分析結果を活用することで、市民の健康寿命の延伸にかかる取組みを促進。

令和 3 年度の分析結果において、「痩せ」、「同年代と比較して歩行速度が速くない」、「咀嚼力の低下」などが、市民の要介護状態の発生リスクを高めることが明らかになったため、②③の取組みを実施。

②Fitness City プロジェクト

健康への関心の有無にかかわらず、「住むだけで健康になるまちづくり」に向け、身近な環境を活用し、自然と楽しく体を動かす、仕組みや仕掛けづくりを推進。

特に現役世代に顕著な健康課題である「運動不足」を解消するため、令和 4 年度から、オフィスワーカーが集まる博多駅周辺をパイロットエリアとして、公園や道路、駅などの身近な環境を活用した自然と楽しく体を動かしたくなる仕組みや仕掛けづくりを実施。



上るとピアノの音が鳴る階段



オフィス付近での体を動かすイベント

③オーラルケア 28（にいはち）プロジェクト

28 本（親知らずを除く）ある永久歯を生涯健康に保ち、健康寿命の延伸と Well-being（ウェルビーイング）の向上につなげるため、治療よりも予防に重点をおき、子どもが楽しみながら歯磨きの習慣作りができる取組みや、忙しい現役世代への定期的な歯科健診のきっかけづくりなど、ライフステージごとの特性に応じた取組みを、令和 3 年度から産学官オール福岡で実施。



取組み例：産婦歯科健診